

恵海著「危機克服は平時の鍛錬で」大機小機 日本経済新聞 2020年5月22日朝刊を読む

1. <はじめに>

新型コロナウイルスまん延という国家的危機を経験し、これを回避するための重大課題が見えてきている。

2. (1)第1は、危機回避の実効を上げるためには、

- ①命令一下、都市封鎖のような厳しい私権制限が可能な独裁的統制国家と、
- ②自主規制を中心に私権制限が緩やかな民主国家のいずれかが良いか。

(2)第2は、

- ①3密回避のような緊急措置は自主規制か、
- ②罰則規定を伴う強制力とするか。

(3)第3は、世界的感染症という「戦時」に匹敵する状況への準備・対応だ。

3. (1)国家形態としては、私権制限を最小限にとどめる統制色が弱い民主国家が良いであろう。

(2)ただし、スピードが重要な緊急措置の場合は、私権制限を伴う罰則付きの強制的措置が必要だ。

(3)今回のように3密回避が最重要の場合、遊技場などの営業停止は罰則を適用すべきだ。

4. (1)パンデミックに対する国家としての準備・対応については、日本は情報収集が不十分であり、その結果、入国制限などの緊急対応に後れを取った。

(2)病院内の体制整備については、戦時としての対応ができていた自衛隊中央病院がモデルとなる。

(3)同院はダイヤモンド・プリンセス号の新型コロナ感染者を重症者も含め 200人以上受け入れた。

(4)他の病院で発生した院内感染も防ぐことができた。

5. (1)これは普段から緊急事態を想定していたことが大きい。

(2)①感染症の防疫、

②重症患者への対応、

③防護服

④N95マスク、

⑤手袋の着脱順位

などの訓練を行ってきた。

- (3)①重症患者の入院区画を特定、
- ②出入りを二重扉で管理するゾーンニングを徹底するなど
- ③平時からパンデミックへの準備や対応を十分に鍛錬してきた結果である。

6.(1)内容の秀逸さゆえに時の米大統領セオドア・ルーズベルトが英訳させて全軍に配布した「連合艦隊解散の辞」には

- (2)①「武人の責務に戦時、平時の差はない。
 - ②平時には鍛錬に努め、
 - ③戦う前に既に勝利の領域に到達している者は勝利を授かるが、
 - ④平時に安心して鍛錬を怠る者は、たちまち敗者となる」とある。
- (3)自衛隊中央病院の好結果も伝統を引き継いだたまものと言えよう。
- (4)今回のコロナ禍の教訓は、
- ①国家としてパンデミックへの準備・鍛錬を忘れ
 - ②対処が後手に回ったことだ。
- (5)これを良い機会として、
- ①国家的危機に関する科学的分析と、
 - ②具体的な対策の準備や鍛錬を実行しなければならない。

<コメント>

リスクマネジメントに精通する恵海氏の危機対応への基本的対応は、すべての国家や行政、自治体、企業に参考になる。

2020年5月25日(月)